

「個性豊かな変人であれ」

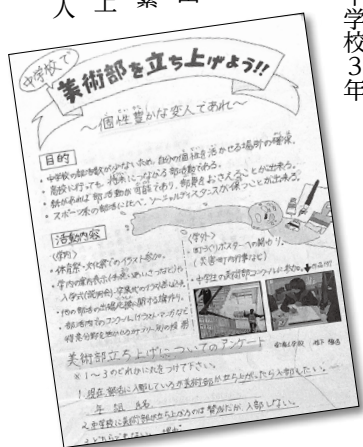
校内アンケートをとった当時小学校6年生の生徒3名。彼女たちは今年の4月、高校3年生となった。

さかのぼること5年前、令和3年の2月。進学先の町内の中学校に文化部が吹奏楽部しかないことを知った女子生徒3名が、文化部を増やすために立ち上がった。同小学校の同級生当時小学6年生と5年生を対象に、中学校に美術部、書道部があったら入部したいかアンケートを行った。学校長と各クラスの担任の承諾を得て、中学校の現状と自分たちがしようとしていることをみんなの前で伝える勇氣は、私たち大人には計り知れなかっただろう。それでも、この活動に踏み切るとき、私は彼女たちに言い切った。

「簡単なことじゃないよ。きつとすごく大変な道になる。それでもやりたい?」迷うことなく、彼女たちは首を縦に振った。

アンケートの結果、多くの生徒が文化部の増設を希望していた。その結果を中学校長に直談判。保護者同席のもと、緊張で言葉が詰まりながらも自分たちの言葉で必死に伝えるその様子は、実現させたいという願いに満ち溢れていた。しかし、その思いは中学校3年間で叶うことはなかった。

子どもたちの未来は今、少子化や働き方改革といった社会環境に左右されている。しかし、出来ない理由を探すのではなく、出来ることを探すことが子どもたちの学びに繋がるはずだと信じた私は、任意団体の立ち上げに踏み切った。資金もない、先導に立つ人



活動のはじまりとなったアンケート

まちむら発見②

空き家再生が育む 子どもの居場所と地域活性

広島県呉市 地域協働総合文化本部



夏休みななどの長期休暇には調理や創作を通じて多くの時間を子どもたちと過ごす

もない中で、私の原動力となったのが、任意団体立ち上げ前に集めた「部活動指導員制度の導入」を訴える千名を超える賛同の声だった。3か月で集めたその署名は、今でも私の原動力となっている。―応援しているよ―と。だから前に進まなくてはならないんだと弱くなる自分をいつも励ましてくれる。

右も左もわからない中で、自治会長を訪ねて行ったり、市の文化振興課の方や、まちづくり協議会との連携により、同年の11月、文化の日に放課後文化部として活動が始まった。その活動を知った町内企業様のご寄付が、さらに躍進するきっかけとなった。

現在、小学校1年生から中学校3年生を対象に、創作活動や調理活動を行う当団体には、約10名の子どもたちが入部している。ランドセルを背負ったままの子どもたちは、放課後の少し小腹がすいた時間を満たし、家に帰る前のなんだか野暮ったい気持ちを絵に描き乱す。今日は何か嫌なことがあったのかな、楽しいことがあったのかな、と作品を通して感じる事ができる。どうにも何もしたくない時には好きなことをして帰っ



新聞漆喰ワークショップ

ていく。やりたいことがダメな時には、「なぜ、それがダメなのか」という疑問にしっかり向き合ってほしい。私自身が子どもたちにそう願う中で、活動場所の公共施設という縛りが、活動範囲を狭めていくことに居心地の悪さを感じ始めた。

そこで、市の空き家バンクで町内の空き家を探し、そこを子どもたちの居場所にすることに決めたのだ。そのスペース名がNous房（ヌーボー）である。Nous房とは、Nous（私たちの）Voice（声）がたくさんの方に届く工房でありますようにという意味で名付けた。学校帰りによってくつろぐ子どもたちや、勉強を教え



アースオープンの完成



宿題を持ち込んで学年を超えて教えあう

合う子が集まり、学校でも家でもない空間で明日のエネルギーを溜め、家路につくような第三の居場所。子どもたちだけでなく、地域の方がお野菜を売り、マルシェを開き、「今日も元気？」と声をかけあい集まる場所となる。この拠点をきっかけにもっと安浦町が元気になってほしい。そして、そんな町で育った子どもたちが、また地元に戻ろう！と思える町であってほしい。その思いで築60年以上の空き家の改修に踏み切った。そしてその空き家は、平成30年西日本豪雨災害で床下浸水の被害に遭った建物でもある。

災害からの復興。西日本豪雨災害の被災者である私にとって再建とは、真新しくするものではなく形あるものとして継承していくべき文化の形成。当時を振り返り悲しむことより、そこから私たちが何を学んだのか、学び続けているのか。災害だけでなく私たちの身の回り、社会環境、全てにおいて、不可能であることを可能にする勇気を、5年前の子どもたちから学んだ。

Nous房は現在も改修中であるが、改修をワークショップ型にしたり、令和7年秋に設置した災害時でも活用できるアースオープンで食事をしたり、食器の譲渡会などのイベントを開催している。今年度からは、今年4月に地域おこし協力隊に就任した平山萌子隊員と協働し、さらに安定した子どもたちの居場所づくりを展開していく。

前に進み続ける力を、子どもたちをはじめ、応援してくださる方々や地域の方々からたくさんいただいで、Nous房とともに安浦町は、成長していく。

（地域協働総合文化本部 代表 峠下陽）